

令和4年度 第1回涌谷町健康と福祉の丘運営委員会 会議録要旨

1. 日時 令和4年9月29日(木) 午後3時00分～午後5時05分
2. 場所 涌谷町役場 第1会議室
3. 参集者 <委員> 戸田慎慎治、米谷則美、新田茂樹、高橋俊吾、佐々木富貴代、久道光子  
計6名  
<職員> 遠藤町長、高橋副町長、大友センター長(欠席) その他別添名簿参照  
計19人
4. 概要
  - 1) 開会 (15:00)
  - 2) 挨拶 遠藤稔雄町長

1. 開会	<p>それでは皆様お揃いですので、定刻より若干早いですが、只今から、涌谷町健康と福祉の丘運営委員会を始めます。初めに委員さんのご紹介をいたします。</p> <p>配布いたしました名簿の順にお願いします。</p> <p>(委員紹介)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは出席者の紹介をいたします。</p> <p>出席者紹介(町長、副町長紹介、センター長は欠席、職員は名簿のみ)</p>
2. 委嘱状交付	<p>続きまして、委嘱状の交付を行います。</p> <p>委嘱状の交付(戸田委員代表受領)</p> <p>続きまして、涌谷町長、遠藤よりご挨拶申し上げます。</p>
3. 挨拶	<p>令和4年度第1回目の涌谷町健康と福祉の丘運営委員会が開催されるにあたりまして、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様におかれましては、大変にお忙しい中、本運営委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、今回の委員改選にあたりまして、就任の依頼に、皆様方にご快諾いただきましたこと、心からお礼を申し上げます。</p> <p>昭和63年涌谷町国民健康保険病院、涌谷町医療福祉センターが開設され、今日まで34年間、社会情勢の変化に伴い、様々な事業を取り入れながら、町民医療福祉センターも成長してまいりました。</p> <p>健康と福祉の丘委員会は、その過程において重要な案件を委員の皆様にご協議いただき、医療福祉センターの成長を支え続けていただいていたものと思っております。</p> <p>今年度からは、これまで当初予算や補正予算を議会に先立って協議いただいていたところではございますが、「医療福祉センターに関する様々な事業」を中心とした協議をお願いしたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、よろしくお願いを申し上げます。</p> <p>また、本日は当町において、平成31年に発令した財政非常事態宣言に伴い、涌谷町として、この町財政運営と密接な関係にある涌谷町国民健康保険病院運営について、町全体の問題として「町財政および病院事業に係る有識者会議」で様々な角度からご協議をいただいたところではありますが、その答申を受けて、涌谷町国保病院の今後の運営のあり方についても示させていただきます。</p> <p>その他にも各部署の重点事業もございますので、これについても説明をさせていただきます。</p>

事務局	<p>涌谷町健康と福祉の丘委員会がコロナ感染症の関係で、本日になってしまいましたが、皆様のそれぞれの立場から忌憚のないご意見を賜ればと思っております。</p> <p>どうぞ本日はよろしくお願いを申し上げます。</p>
<p>4. 正副委員長の選任について</p> <p>5. 部会の構成について</p>	<p>それでは議事に入ります前に、本日、第1回目でございますので、本委員会の規程について事務局の方からご説明をさせていただきます。</p> <p>資料説明</p> <p>それでは議事に入ります。 委員長が選任されるまでの間、事務局で議事進行をさせていただきます。</p> <p>正委員長の選任について、を議題といたします。 提出方法は規則第12条第1項に基づき、委員の互選によって定めることとなっております。どなたか自薦、推薦等ございませんでしょうか。</p>
高橋委員	<p>事務局の方で案がありますか。ありましたら、事務局案でお願いします。</p>
事務局	事務局案説明
高橋委員	<p>それでは、別添にお配りした事務局案で了承いただいてよろしいでしょうか。</p> <p>全員了承 この後、委員長の議事進行をお願いいたします。</p>
6. 協議事項	<p>① 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保について【健康課】</p> <p>② 重層的支援体制整備事業について【福祉課】</p> <p>③ 認定こども園建設について【福祉課子育て支援室】</p> <p>④ 令和4年度病院事業、老人保健施設事業並びに訪問看護ステーション事業の運営及び経営状況【総務管理課】</p> <p>⑤ 町財政及び病院事業に係る有識者会議からの答申書について【総務課】</p> <p>⑥ 涌谷町国民健康保険病院の運営について【総務管理課】</p>
戸田委員長	<p>まず①の新型コロナウイルスワクチン接種体制確保から、③認定こども園建設についての3本を事務局より説明、報告し、次にご意見を伺いたいと思います。</p> <p>木村健康課長 資料1-①の説明 佐々木包括支援班長 資料1-②の説明 佐藤子育て支援室長 資料1-③の説明</p>

戸田委員長	皆さんから、ご質問等がありますか。
新田委員	<p>3番目の認定こども園の件で、現状の3歳児から5歳児の預かり保育のニーズが高いということですが、ここ最近の出生率を見ると、月3人、年間40人です。ということは、5年後、現在の192人は、ほぼ半減すると見ているのですが、このままの状況が続けば、当然預かりの人数も減ってくるはずですが、おそらく南幼稚園が老朽化していることも言われていますが、南幼稚園の代替として認定こども園の方で行っていただくということもあるのかもわかりませんが、そういうことは言っていないので、現在の人数だけで、ニーズは高いというと、ちょっと違うのではないかと、思うのですが、いかがですか。</p>
戸田委員長	只今の質問に関して事務局よろしいですか。
佐藤子育て支援室長	<p>確かに少子高齢化、特に少子化がいろいろ問題になっていると思います。認定こども園建設にあたっては、事業者さんで現状を加味して、規模の設定を行っていますが、子どもの人数が今後半分になれば、預かりを利用する方も半分、幼稚園を利用する方もいなくなってくると思います。</p> <p>しかし、少子化の問題というのは、町全体で考えていかなければならない、こども園ができる、できない以前の問題だと思いますが、こども園が開園することによって、操業開始予定の新企業の就業者に女性が多いということもありますので、そのニーズもありますし、また、核となる園ができることによって、他の町からもこの町で子育てをしたいという方が来る可能性もあります。また現在、妊娠出産をちょっと控えている方、子育てに不安を感じている方が、こういう施設があって預かっていただけるのだったらとなっていく、いろんなニーズがあると思います。</p> <p>もしかしたら、少子化に歯止めがかかる、そういう起爆剤となればいいと、考えています。実際その5年後にどういうふうになっているかは、確実ではありませんが、そういった期待も込めて、その核となる施設になっていけばいいと考えております。</p>
新田委員	<p>とりあえずの回答としてはいいのですが、私からは議員懇談会でも、申し上げたのですが、こども園の個別の話じゃなくて、涌谷町全体の人口減をどうするのか、その中の子育て支援だとか、こども園だと思えるのですよ。5年後、お母さんが来てくれるか、わからないじゃなくて、来てくれるような、それこそ包括的な施策を打っていかないと、(少子化に)歯止めはかからないと思います。そんな希望的観測で言っているのでは、来ないと思います。</p> <p>いつかNHKの報道かで、田舎の町で、町ぐるみで出生率を上げる策を立てた。そういうことがあって、子育てしやすい町になった。ものすごい子育て支援策を町ぐるみでやっている。支援策として町全体でそういうことをやっていかないといけないと思う。それで、この後に出てくる国保病院の問題もそうだが、小児科を作れとは言いませんが、町内に小児科がないので、赤ちゃんが病気だったらみんな古川に行く、だからそういうところも、医療も含めて包括的に施策を打ち出さないとい、民間のこども園にだって維持していけないと思う。</p> <p>そのためにも、もっと町ぐるみで支援することが必要ではないかと思う。今年の成人式は涌谷町180何名の成人がいる。この人たちが町内に住んでいただいて結婚して、家庭を持っていただければ、こんな生まれてくる赤ちゃんが月に3人しかいないとはならないと思う。</p>

戸田委員長	<p>だから、そういうことも含めて、もっとその包括的な施策を打っていかなくちゃいけないというのが、自分の意見です。</p> <p>それで、私、引っかかっているのは、涌谷の土地で、町の力を借りて開設する園ですよ。その場合、地域密着でないけれど、町内の方優先で、基本的には町外の方は利用できないっていうような立ち位置でやるのか、あるいは最初から希望する方は全部受けるというのでやるのかどうか。</p> <p>それからもう一つは、ある程度町内に限定した場合、私は箕岳幼稚園の歯科園医をしまして、見ていると年々園児が減ってきているが、預かり保育をしている子どもたちが結構します。もし、その子供たちがそちらの園を希望した場合、そうすると、各地区のいわゆる地域作りをしてきた幼稚園、そういう地域コミュニティが変わってしまいます。私は、箕岳幼稚園の園医が長いので、愛着があるのですが、もしもそういうことになり、幼稚園もなくなれば寂しいなって思うのですが、最終的にどこを目指しているのか、そこを町民の方にお話ししないと、と思います。</p> <p>例えば、今度建設する園が中心となって、それがメインでそれに足りないものを補完していくのか、既設の園を全て統合してしまうのか、そういうものも、もう考えていかないといけない。一番その地域の方の理解が必要です。</p>
米谷委員	<p>この建物が、いわゆるこれから、どういう良いことがあるのか、というように、各世代の方の交流が広がる場所できる、でも無くなる場所もあるのが現実です。ですから、涌谷町はこうしていくんだ、という将来のイメージを出した上で、地域の方々の理解も得ていかないと、出来たのはいいけど、あれ、ちょっと思ったのと違うというような、町づくりに反する形にもなる。そこのところをきちっと押さえてやっていただいた方がいいと思います。</p> <p>保育園の問題ですが、土地は貸してはどうか。</p>
戸田委員長	<p>既に売っているということで、いろいろ協議をしてのお話だと思えます。その場合のいわゆる便宜を図ったわけですから、それなりのある程度の縛りはそういうものを事業者にはやはり求めていくという、いわゆる最初から求めて、確約するというような形をとらないと、将来的にどんなことが起きるかわからない。委員の皆様もいろんなことを心配されているので、もう一回、その部分を確認していただけたらいいと思います。</p>
米谷委員	<p>資料 1-② 9 ページのいろんな問題が枠で囲まれている中の「多頭飼育」とは何ですか？</p>
佐々木包括支援 班長 新田委員	<p>猫を複数飼っていて、まわりに迷惑をかけている等の問題です。</p> <p>この保育園幼稚園も含めてですが、町立の幼稚園や、私立の保育所があります。将来、必ずどっかで再編になるはず。何年頃にはどの幼稚園が閉鎖とか、そういうのは、そろそろ描いておかないと、住民にいつの時点でお知らせするかというのがあると思いますが、青写真を描いておかないといけないと思います。</p>
高橋副町長	<p>この9月議会に、やはり同じような質問で、「幼稚園はどうするのか」ということに対して、教育長の答弁ですが、来年4オープンを目指して</p>

	<p>おりますので、その入園申し込みを12月までに行います。その認定ことも園の方に何人ぐらい需要があるのかということで、将来的な再編について、検討を始めたいということでした。</p> <p>まだ現状では、どこをどうするというのは、教育委員会としても考えていないそうです。</p> <p>もう一つ、先ほどご質問いただいた、戸田先生が話されたように、保育所というのは幼稚園とちょっと違っておまして、例えば、石巻の子どもが涌谷の施設を利用する場合でも、親は石巻市に対して利用料を払います。その後石巻市から委託料の形で町に入金されます。</p> <p>ですので、もし余裕があれば、その石巻市の子供を受け入れることで、その町に何らかの負担があるかということ、それはないので、ご心配は大丈夫です。</p>
戸田委員長	<p>重層的の事業について、町長、副町長にお願いなのですが、この事業を見ると、非常に煩雑で、今までよりもすごく仕事量が多い。担当する部署が、大変でないかと心配で、その場合、町の方でも人を増やすことはできないかと思うが、宮城県でもほとんど実施していない事を実施しようという心意気が伝わる事業なので、どうにか、今の人数だけで実施というのはなかなか大変ですので、許されるならば、見合うような人材を投入していかないと、大変になると思います。よろしく願いいたします。</p>
高橋副町長	<p>もちろん、町の包括支援センターのスタッフはある程度必要だと思うのですが、この事業は、他機関協働でありますので、決して包括支援センターだけではなくて、例えば社会福祉協議会だったり、障害者相談支援機関であったり、そういったところと力を合わせて、複雑な問題に対応していく、さらには民間の民生委員さんであるとか、地域にも協力いただき、行政職員だけでなく町民皆で支えていくものであります。</p>
戸田委員長	<p>今のお話で理解しましたけども、ストレスとかですね、いろんな見えない時間的なロスとか、いろんなものが出てきます。効率性の良さだけでなく、モデルなので、協働という言葉はいいが、実際は結局大変だという現場の声があったらば、聞いていただければと、よろしく願いします。</p> <p>その他、何かございますか、よろしいですか。後で全体的にも質問を受けたいと思いますので、次に進めさせていただきます。</p> <p>④令和4年度病院事業、老人保健施設並びに訪問看護ステーションの事業運営及び経営状況ということで、ご説明をお願いします。</p>
戸田委員長	<p>総務管理課佐藤総務班長、平塚管理班長 資料④の説明</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>令和4年度の3事業における経営状況ということで説明頂きましたけれども、これに関しまして委員の方から何かご質問、ご意見ありますでしょうか。</p>
新田議員	<p>区長会でも病院の経営状態という話題が出ていましたけれども、私もしばらく前のニュースで日本全国の公立病院で、黒字になっているのはほとんどないという報道がありました。公立病院として、特に涌谷町では最終目標をどこに置かれているのか、あくまでマイナスは出さないと</p>

高橋副町長	<p>思っているのか、ある程度の繰り出し金があるのか。福利厚生費用だと考えれば、ある程度は出費も致し方ないと感じておりますが、その辺りはどうでしょうか。</p> <p>繰り出しについての考え方ですが、実は総務省の方で、公営企業に対する繰り出し基準というのを設けています。町が理想としたいのは、その総務省の基準内の繰り出しは、やむを得ないだろうと。で、それを医業収益に加えた経常収支で100%赤字を出さないところを、町としては目指しております。といいいますのは、総務省で言っている基準内繰り出しについては、ある程度、地方交付税の方で補填されますので、その補填もあることから、そういった繰り出しについては、やむを得ないなということです。また、実は令和2年度の決算で、全国自治体病院協議会という団体がありますが、その発表で、令和2年度は確かに4割くらいの病院が黒字になっていました。といいいますのは、新型コロナの感染症患者の受入増で、国からの交付金の手厚く交付されて、黒字となっている。もう1つは、新型コロナワクチン接種に積極的に取り組んでいる病院は令和2年度については黒字になったというニュースが出ておりました。</p>
新田委員	<p>そのコロナの交付金がなければ、赤字ですよ、当然。</p>
戸田委員長	<p>よろしいでしょうか。新田委員さんの今の質問もそうですけども、後半のいわゆるこれから運営ということに関わるので説明をしてもらいましょう。⑤、⑥続けて説明いただいてから、またご意見を伺いたいと思います。</p>
戸田委員長	<p>高橋総務課長 資料1-⑤ 資料説明</p> <p>⑥ですけれども、有識者会議の答申を受けて、ある程度、地域の状況とか病院の財政状況とかはこちらである程度承知していますので、令和5年度からの病院運営基本方針を、そちらのほうから答申を受けてどういう形でやっていくのか、お話し頂いて、委員の方々からご意見を伺うという形にしてもらうということでもいいでしょうか。</p>
戸田委員長	<p>木村総務管理課長 資料1-⑥ 資料説明</p> <p>はい、ありがとうございました。今の説明の中で、令和5年度からの病院運営の基本方針となっておりますが、いわゆる案ではなく、この通りに進むというのでよろしいのでしょうか。</p> <p>事務局より、「はい」という声あり</p> <p>もう1つ確認ですが、その前の⑤で答申書について説明がありましたけれども、一応、2ページのいわゆる答申のまとめの「病院の経営強化は町との一つの共通認識のもとで推進する」こととありますので、いわゆる現場の病院と町の方ではある程度の提案のすり合わせが行われており、こういう形でのご提案ということよろしいのですよね。</p> <p>事務局より、「はい」という声あり</p> <p>これに関しまして、先程、新田委員さんからの大事なご意見があった</p>

のですが、改めて具体的には、只今のご説明では11月中旬にはもう1度、丘の上委員会の委員の方々にお示しして、意見を頂くということになっておりますが、現時点での状況での何かご意見とかご質問とかあれば、お願いいたします。

高橋委員

町長に、意思を確認したかったのですが、今、これは病院側と町側ですり合わせ済みだというお話ですので、町長はこの方針、そういう考えだということで受け止めさせて頂きました。

ただ1つ懸念があるのですが、それは、議会はわかっていないのではないかと思います。病院開設からもう何年も経過したのですが、病院を作るときに当時の議会が、特別委員会を設置して「こうゆう医療をやる、町民に対して、こういう病院を作る」ということを議会は全員一致で決議をしているのですが、現在の議員はそのことを知らないのではないかと感じています。それは勉強不足ではないのかと思うのです。これまでの議会の質疑を傍聴しても、誰一人こういうことを質問しない、いつも赤字のことばかり言っているけれど、本当はそれよりも大切なのは、町は、こういう病院を作ると言っておきながら、そういう医療をやったことなかったことだと思うのです。スタートした当初の何年間かは、その方針で運営し、そして経営が上向いてきた。ところがある時から、どうもこういう方向じゃない、別の方向に向いてしまった。ちょっと言い方が悪いかもしれませんが、何かその当時の古川市立病院に対抗するよう大きな病院にしよう、みたいな。今、恐らくほとんど稼働していないMRIを導入し、そういう方向にいつてしまった。その経過を今の議会は知らない。ですので、議会で、もしそういう質問が出たときに、町長は断固としてこういう信念で運営するという、これは是非、そういう答弁をして欲しいという、これは質問というよりは、お願いになりますけれども。

遠藤町長

熱い想いを感じます。今回、病院経営改革プランというのは、3回目になりますが、私が議員1期目のときに議会特別委員会で病院経営改革プランを協議しました。委員長ということで、米谷先生はご存じですけども、胃に2つ穴があいて、胃潰瘍があり、まだ、お薬を頂いているというところではございますけれども、それくらい真剣に取り組みました。

そのときに社会福祉協議会会長の高橋委員さんから、これを参考にと渡されたのが、開設当時の議会特別委員会の報告書でした。私はそれをバイブルとして、基本としている。病院は企業ですからお金はしっかりと頂かなければいけないということは、もちろん大事になりますけれども、いつの間にか、私も理念というものがどこかにいつてしまったような気がします。ですから、糸の切れた凧みたいに私には見えてなりませんでしたが、今回、私はその基本に立ち帰って、そして地域包括医療、涌谷町町民医療福祉センターシステム構想というものをしっかりと再構築しなければと思っています。

また、現在、大崎地域の地域医療構想の中で、様々な調整会議がありますけれども、そのときに涌谷の病院というのは、何か知らないうちに埋没しているのを感じております。センターの理念がここにしっかりと存在するようにするためにも、再構築を図ってまいります。

私どもはそういったような形の中で、今、コロナですけれども、これまで涌谷町の住民、地域の住民の人たち、私の親父もお袋もそうでしたが、病院にお世話になりながら朝晩に顔を見せながら、最後は国保病院でなんとか看取ってもらった。それを私たちの世代もそのようにお願いしたいというのが私の願いでもありますので、今回はそういった思いを、

原点に立ち返った思いを入れて、そして地道ではありますけれども、少しずつ医業収支の向上につなげながら、町も大分の努力といえますか、新田委員さん、高橋委員さんがおっしゃったように、その設定をどこに求めるのかということはあると思いますが、病院だけの努力ではなくて、町全体の努力として、どれくらいの財源手当てをすると立ち行くのかということ、就任してから模索してきたこととございます。そういった、今、言ったような設定をつけるのはやはり病院のスタッフの皆さんとの話し合いがなければ積み上がりませんので、今それを真剣にやっているととらえてございます。尚更そういった事を皆様方から、その場、その場の立場で適切なアドバイスをしていただきながら、それを力として病院運営をやっていきたいと、そのように思っております。

私は確実に好転していくと信じておりますので、原点に立ち返ったような病院運営を目指していきたいと思っております。涌谷町には町民医療福祉センター、国保病院があるというのが大きな売りでございますので、再構築していきたいというのが私の思いでございます。

高橋委員

それと、ちょっと言っておきたいのですが、作る時に当時病院がなかった。それで、今は米谷先生はじめ町内に開業の先生が数多くいらっしゃいますけれども、涌谷には病院がありませんでした。先ほど、新田委員さんからお話があったように小児科はみんな古川に行っていた。当時は小児科だけではなく他の診療科もみんな仙台、石巻に行っていた。町の一般会計の財政状況は当時だてあまり良くなく、苦しくなる状況であったが、町としては一般会計の財政状況は悪くなるだろうけれども、町にその人たちを受け入れられる病院があれば、町民の人たちの負担は減るといふ、そういう効果があると考えた。

努めている人が仙台に行けば、丸一日その日の収入はなくなるし、行くための経費だてかかるし、そういうことを町として、町全体として考えたら決して高いものではない、町の予算だけを考えるのではなく、町民の方達の家計を含めて涌谷町ということと考えれば、これはやはり作った方がいいのではでないか、そういう考えの下に作った病院なのです。

そして、繰り出しの問題は、当時、いわゆる他の町が文化会館を作ったりとか、何を作ったりとかそういうことと同じような考え方で、町は保健と医療と福祉に財源を投入するというところで、政策として実施する、という考えであった。

この建物の建設費分ですが、企業会計だから減価償却やらなきゃいけない、町が作るのだから、そうすると減価償却分と、それから企業債の償還分は町が負担するべきじゃないか、そういう考え方だったのです。その部分は、いわゆる基準外の繰り出しをやっていたわけですけども、その辺はいろいろ一般会計の財政との絡みもあるので、いろんな話で変わってきているので、しょうがない部分はあると思うのですけれども、とにかく、病院は病院で全部やるっていう、そういう考え方はやっぱりちょっと違うだろうと、私はそう思っています。

遠藤町長

その当時の試算、今に直しての試算はわかりませんが、当時その経済効果、それが20億ぐらいありました。病院の収支と全く関係ないことですね。ですから病院がなくなったとき、初めてそれに気づくことになる、それでは後の祭りだと思っています。

病院への繰出金については、そのあたりをイメージしていますし、減価償却費は病院の内部留保金として残るような形にしたいというイメージであります。

高橋委員	しかし、赤字でいいということではないと思います。それは付け加えさせて下さい、やはり企業ですから、経営努力をしないとイケない、ということはありません。
遠藤町長	減価償却費前で、利益があればという、そういうイメージであります。
戸田委員長	<p>結局、ないものからあるものを作ったのですね、今度はあるものがなくなっちゃうときに、結局、町民が、はじめて気づくことがあります、特に医療に関しては、ですからそういう見えない需要とかが増えてくるはずなので、特に遠田郡医師会とか、医師会の先生方に事前に十分理解頂いてご協力頂かないとイケないと思います。</p> <p>スケジュールが非常にタイトですので、先ほども言いましたけれども、いろんな方々の意見を集約してっていう形にする事が必要ですので、ちょっとずれても、ここまで絶対やるというような、ゴリ押しではなくて、丁寧な形で、いろんな場面で皆様がある程度納得する形で進めないと、理想的だと今の形で思っている、まるで違うものにも出来あがるということもありますので、いわゆる、やはり人も大事ですし、もちろんその今までの蓄積も大事ですので、そういうところはある程度踏まえた上で、やって頂ければと思います。</p>
遠藤町長	<p>そういったところをある程度踏まえた上で申し上げますが、予算の方は、議会が議決すべきだと思いますが、まず基礎となる事業について、皆様から様々な考えを示してもらいましたけれども、それに対して、しっかりと受け止めて、しっかりと答え出せるような形にしてから、予算化していきたいと考えます。</p> <p>これまでは、丘の上委員会で予算も審議していたため、議会と2回審議されるというような形になっており、やはり、今回のような形式で、本当に率直なお話を聞かせていただいて、それを、事業としたり、予算化したりして整理したいなど、思っておりますので、今日のような形で、どうぞご遠慮なさらなくて、ご遠慮しているとは思いませんけれども、どんどんご発言頂いて、私たちの行政の栄養にさせて頂きたいなというふうに思っています。</p>
戸田委員長	はい、ありがとうございます。
米谷委員	<p>ダウンサイズに関して、私は正しいと思っていました。ついこの間、9月11日の医師会の共同設置の連絡協議会というのがありましたが、そこで、ほぼ同じ悩みを抱えた函館市医師会病院と能代市組合病院、ここはどうやったかというのをみてみますと、やっぱりダウンサイジングでした。そして地域包括ケア病床を増床して、増収して何とか乗り切ったという2例がありましたから、やっぱりその方向性は間違っていないだろうなと思います。</p> <p>また、私はやっぱり医者ですので、医師確保対策ですね。質問ですが、一番上の宮城県派遣の自治医科大卒業医師の医師派遣、2番目の東北医科薬科大学卒業医師の派遣と、今後、どっちに軸足を置くのか。両方やっていると思煙されると思います。あそこは、あっちでやっているからと、ですので、どちらかを選択した方が僕は正しいような気がします。</p>
木村総務管理課長	自治医科大学医師も、東北医科薬科大学の宮城県枠の医師も宮城県に人事権がある医師です。これまでも自治医科大学の卒業医師については、毎年1人派遣して頂いておりました。これは宮城県の人事です。次の東

米谷委員	<p>北医科薬科大学の医師については令和6年度から、初期研修が終わって卒後3年目の医師が後期研修に入ってくるとのことで、この宮城県枠が30名程いますので、この医師の自治体病院への派遣が始まります。但し、負担金がございます、年間300万という負担金がございますので、なかなか自治体病院で毎年300万をお支払いするのは大変とのことです。ただ、涌谷町はタイムリーに過疎指定地域になりましたので、これに過疎債が充てられるということで、ぜひとも過疎債を当てて頂きたいということで、町の方に頼んでいるところです。それで、軸足とのことです。これは、どちらも地域医療を実践している大学でございますので、出来れば両方お願いしたいと思っております。今後の県の方向性によります。</p> <p>医者になる前の学生、これ大事ですね。学生の研修ですね。東北医科薬科大学では同じ町の所に同じ人が何度も研修に来ている、毎回、何年生であったか忘れちゃったけども、そういうサイクルで来ていると、その町に対する理解が深まって、卒業したときに、就職する可能性が増えるのではないかと、そういうプログラムがあります。これをやっている医学教育推進センターの先生、あと、もう一人はまさに地域医療総合支援センターがあるのですが、このセンター長も私の友人ですので、是非こういう人材を利用して、育てる漁業じゃないけど、なった医者をゲットするのもいいけど、その前から交流を深めていって欲しいなと思っておりました。そういう意味では、僕はちょっと軸足こっちに置いて欲しいなと思っております。</p>
木村総務管理課長	ありがとうございます。後ほどご相談させていただきます。
戸田委員長	その他にございますか。
久道委員	私も町民としてやはり最後は町、町の病院で最期を終えたいなという思いです。家族も幸いにも町の病院にお世話になったので、町民としてはやっぱり最期は国保病院をというような気持ちがあります。先程、病床数を減らすことによって人員が老健とかその他いろいろあると思うけど、活用するという説明があったと思いますが、やはり人事交流ということも、「ゆうらいふ」との人事交流も社会福祉士がやっていますけれども、それ以外の職種においてもしていったほうが、どちらも質の向上にはいいのではないかと考えています。感想ですが、地域包括ケア病床が回復期の13床から20床になるのは非常に良いと思います。
木村総務管理課長	ありがとうございます。人事交流は本当に大切だと思っております。社会福祉協議会のご理解を得まして、今回、社会福祉士の人事交流を再開しております。今後もいろいろな職種で実施していきたいと思っております。それから地域包括ケア病床は、現在の高齢化社会において魔法の病床と言われていて、これを拡充していこうと考えております。
戸田委員長	よろしいでしょうか。ご意見をくみ取ってください。その他いいですか。
佐々木委員	今、医師確保ってあるんですけども、いつも、住民としては、やっぱりいい先生がいらっちゃって、いいと思っていると2、3年で異動されるので、自分の身体を預けるのにすぐ変わってしまうというのは辛いかな

	ら、やっぱり民間の先生に移るんだという声を結構聞いています。ですので、確保するのはいいのですけれど、最低3、4年はいて欲しいという気持ちが、住民としてあります。
戸田委員長	その点はですね。十分。人材育成という形でお願いしたいと思います。
佐々木委員	有識者会議の方がずっといっぱい意見を言って、涌谷町をいろいろ気にかけてくださってますが、今、高橋さんがおっしゃったように、涌谷の国保病院が出来たという生い立ちとか、全体を把握なさっているのでしょうか。
戸田委員長	米谷先生が委員をされているので、どうですか。
米谷委員	それを理解した上で、ちょっと前のような背伸びした状態を把握して、じゃあそれを戻そうよ、という感じだと思います。自然な形というか、あるべき姿に戻しましょうよ、という意見ですね。もちろん設立された頃の経緯とかその時のコンセプトとかをわかっていると私は思っています。
戸田委員長	じゃあ、よろしいですか。はい、今日はいろいろ長い間ありがとうございました。 ⑦その他ですが、事務局なにかございますか。
木村総務管理課長	特にございません。
戸田委員長	それでは以上で本日の会議の日程を終了しますので、事務局の方で閉めてもらってよろしいですか。
佐藤総務班長	それでは戸田委員長ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、副委員長の米谷委員から一言お願いします。
米谷委員	今日は委員をやらしてもらいましたけども、やはりこの会の一番いいところは、というかこれからもそうして欲しいのですが、各委員さんから好き勝手言わせてもらって、その中からいいアイデアを吸い上げてもらって、町立の病院をより良い望まれる姿に持って行って欲しいと思います。今日は本当にありがとうございました。
佐藤総務班長	以上を持ちまして委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。

## 7. 次回開催日程について

- 事務連絡 ①本年度は本会議4回のみ開催  
②次会は11月予定

## 8. 閉会（午後5:05）